

所属・資格 教育学科・教授

申請者氏名 小笠原 喜康

研究課題		多様な指向性を導く博物館セルフガイドの開発
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>物館の展示は、教育活動の中心であることには変わりがない。しかしこれまでの展示は、一方的に館側の研究を展示するばかりで、来館者の意識を導くことは少なかった。確かに、ハンズオン・コーナーを設けるなどの工夫を近年おこなってきてはいるが、理論がないために、おぎなりの展示が多かった。そこで本研究では、現象学でいうところの「志向性」の概念の検討から、多様な意識をみちびくセルフガイドを開発する。</p>
	研究の結果	<p>展示解説の問題は、けっして技術的な問題ばかりではない。それは、大きくは近代思想の問題であり、博物館そのものの近代におけるミッションの問題でもある。本研究では、思想問題として、あらためてデカルトとカントにたどり、そこから博物館のミッションを問いなおした。その結果、デカルトからは、方法的懐疑によって、科学的知識を知らせるのではなく疑問を提示すべきであること、そしてカントからは、世界市民にむかって自分の言葉でかたることが近代の啓蒙思想であることを見いだした。</p> <p>そして具体的な技術的な問題として、D. Dennettの志向性論にたつて、展示解説について3種類の方法を提示した。それは、a. 志向性の物理的構え、b. 志向性の計画・設計的構え、c. 志向的システムの志向的構え、の三つである。この三つの構えから、展示解説をおこなうことは、よりわかりやすい展示解説になることを示した。</p>
	研究の考察・反省	<p>研究としては、論文の形にはまとめられたが、実際の実験までは至らなかった。協力館の学芸員とそれを現在模索中であるが、いざ実際におこなうとなると、種々の制約（物理的・経済的・制度的）がかかることがわかった。そこで、現在、特別展においてそれができないか模索している。今後は、再度、理論のブラッシュアップと、実際展示における実施と評価をおこなっていきたい。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	<p>◇ 研究発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「展示解説における客観から主観へー 学芸員と来館者の志向性のぶつかり合いをつくるー」第45回全日本博物館学会大会，新潟県立歴史博物館，2019.06.23.</li> </ul>	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>◇ 研究成果物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「展示解説における主客逆転ーデカルト・カントの近代の思想に還ってー」『子ども博物館楽校』8号（印刷中）</li> <li>「来館者の志向性を導く展示解説ーD・デネットの心の哲学からー」『子ども博物館楽校』8号（印刷中）</li> <li>「科学系博物館におけるトランス・サイエンス問題の展示等の調査（平成30年度 人文科学研究 研究所総合研究 研究報告）」日本大学文理学部人文科学研究 所『研究紀要』（共著）99，（印刷中）</li> </ul>	